

国語科学習指導案

実施日時 平成26(2014)年 2月 6日(木) 第7限
学校名 鳥取県立鳥取西高等学校
学級 1年2・6組 28名
授業者 鳥取県立鳥取西高等学校 教諭 菅生 涼子
場所 鳥取西高校 図書室

題材(単元)

文学作品の批評に挑戦

—図書を活用で読みを深める—

(大修館 国語総合現代文編 小説(四)「城の崎にて」)

目標

- 話し合いや仮説の検証、図書の利用を通して、作品理解を深める。

【読むこと】

【話すこと・聞くこと】【書くこと】

指導上の立場

○ 題材観

これまでの授業では、筆者(作者)の表現や主張を表面的になぞるのではなく、自分の言葉で捉え直していくことを目標にしてきた。本題材は、多くの生徒の「静か」「暗い」「淡々としていて最後まで盛り上がりがない」といった感想からもわかるように、生徒の興味関心を大きく動かす作品とは言いにくい。しかし、構成の端正さや生き生きとした描写、そして生死についての感想を深めていく主人公の心境の変化などを手がかりにして読むことで魅力を発見できる作品でもある。そこで、自分で手がかりを見つけ、なぞ解きを楽しめる授業にしたいと考えた。本題材においても、協同的に学ぶことをとおして読むことへの意欲を高めていくということ、表現を掘り起こすことで文章に対する新たな視点を獲得し、深く自己の形成、成長を促すことを志向したい。

○ 本題材で工夫する点や手立て

- ① 一つ一つの表現を多面的に掘り起こせるようにペア、グループでの活動を多くとりいれる。
- ② 図書資料の専門家である司書や司書教諭に指導助言をいただき、作品理解を深めるとともに、自分で小説を読み解く楽しさを味わえるようにする。
- ③ 仮説の論証を通して「どのような根拠で」「何を」伝えればよいかをよく考え、表現活動をとおしてそれを的確に伝えることができたかを振り返られるような手立てをする。(ワークシート、相互評価)

学習指導計画（全8時間扱い）

【第1次】 小説「城の崎にて」の読解 〈4時間〉

第1時： 作品と作者に関心をもつ。（ブックトーク：20分）

初読の感想（宿題）を共有する。

あらすじと構成を把握する。

第一場面を読み、感想や印象から小説の冒頭としてどのように評価できるか考えてくる。（次時までの宿題）

第2時： 冒頭の評価についてグループで話し合い、発表する。

＊導入の効果を分析・冒頭と末尾の対応に着目

第一段落における「自分」の心情を理解する。＊情景描写との関連に着目

「蜂の死」、「ねずみの死」、「いもりの死」と『『自分』の心境』

について担当グループで読解することの予告と準備の指示

第3時： 前時3の内容（エキスパート活動）

各場面の「自分」の心境を独白のセリフで表現する。

第4時： 前時の続き（ジグソー活動）

各場面の独白のセリフをもとに、「城の崎にて」のコピー文を考える。今までの授業の中で解決しきれなかった疑問や詳しく調べてみたいことを整理し、4テーマにする。

1テーマを2～3グループが担当し、それぞれのグループで仮説を立て、図書館の資料等を使って検証することを指示する。

この活動を通して、生徒たちが持つ疑問や、読解しきれなかった部分をピックアップし、テーマ、仮説につなげる。

想定されるテーマ

「なぜ城崎に？」「心境小説の魅力」「城崎を去った後の『自分』」「志賀直哉とはどんな人？」「表現方法の工夫」など

【第2次】 小説「城の崎にて」の論証 〈3時間〉

第1時： 自分たちが担当するテーマに関する仮説を話し合い、図書館の資料を使って（本時） 検証していく。

第2時： 前時の続き 完成へ（A4シートの形で提出）

第3時： 提出されたシートを印刷して生徒へ配布。各グループからの説明と質疑応答。

【第3次】 小説「城の崎にて」のレビュー（批評文）を書こう 〈1時間〉

第1時： 「城の崎にて」の批評文を、評価のポイントを明確にして書く。

クラス内で輪読・相互評価をする。